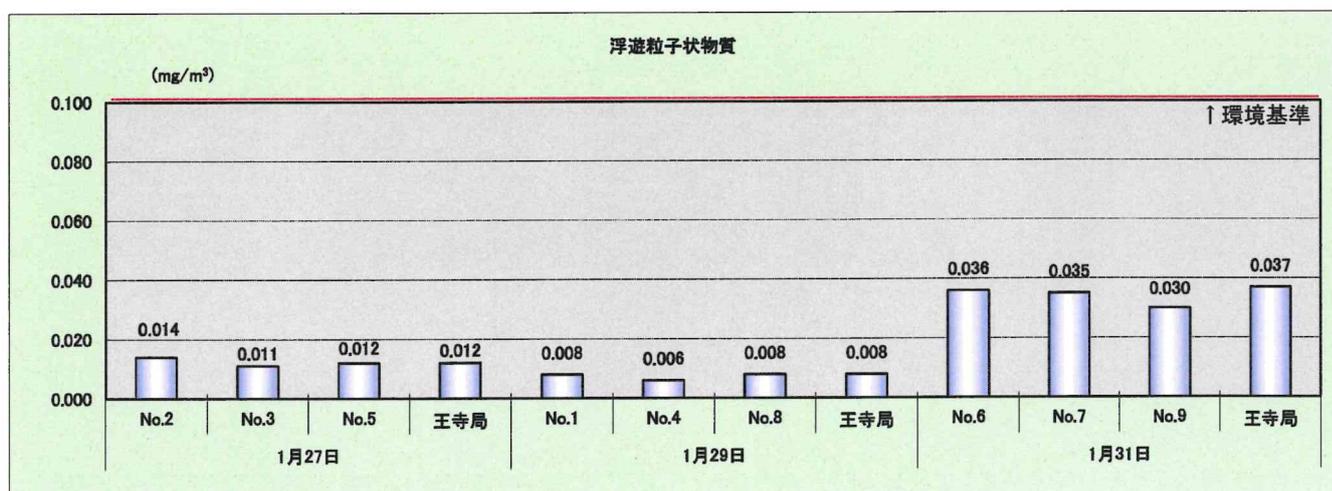
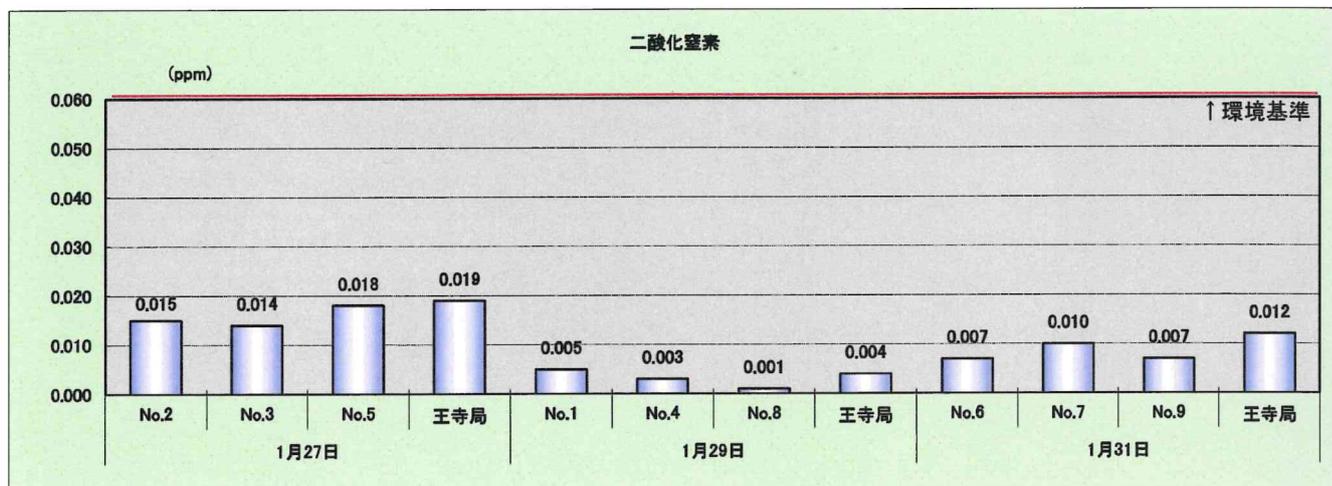


令和6年度における大気環境調査の結果について

測定地点全体として、二酸化窒素、二酸化硫黄、浮遊粒子状物質とも、環境基準を超えたものはありませんでした。



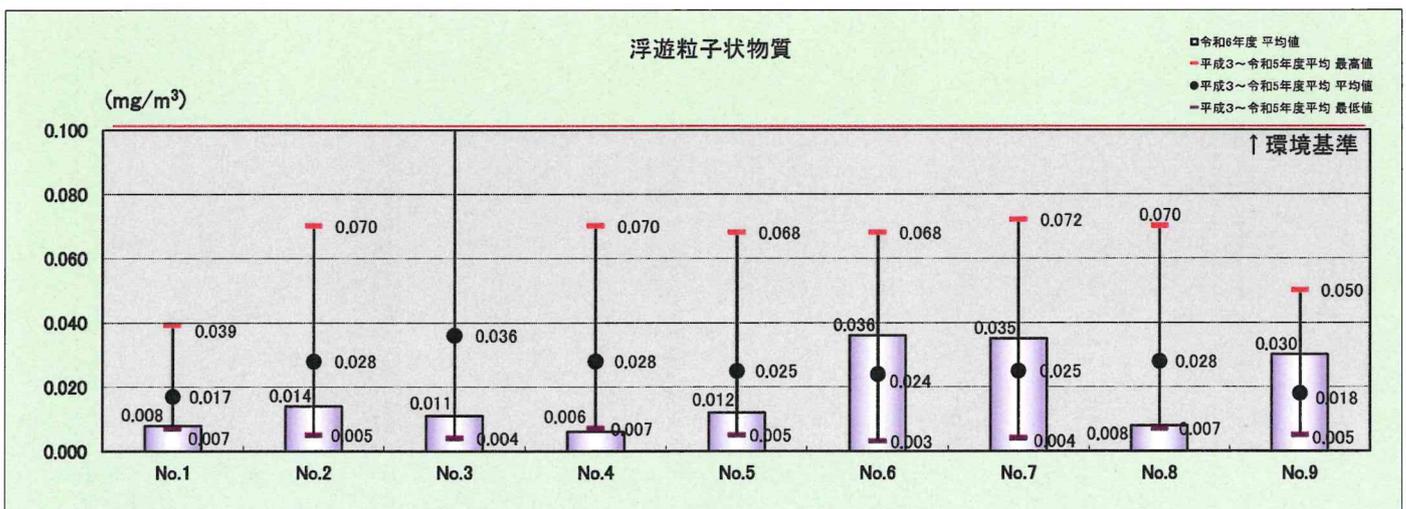
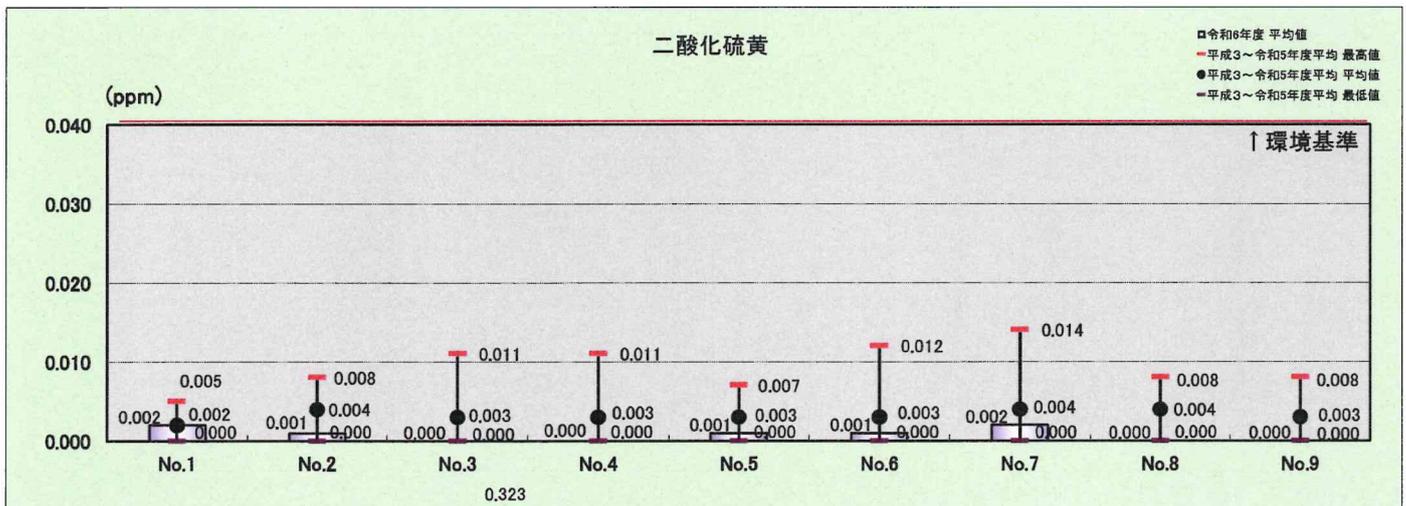
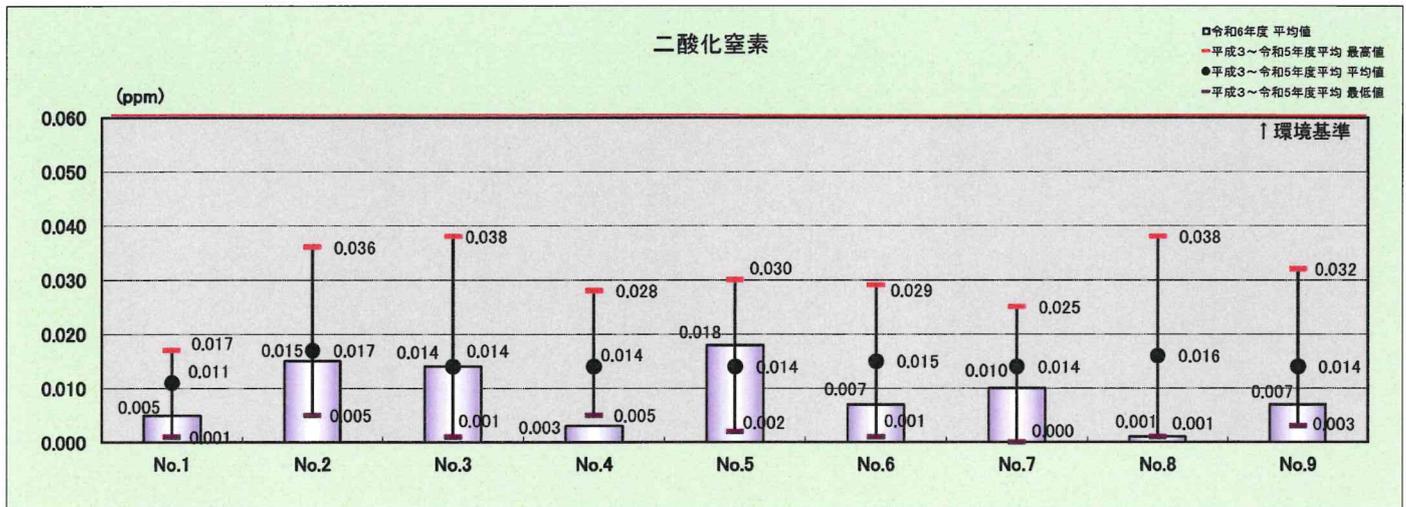
年度別の変化

平成3年度から令和5年度に調査した結果と令和6年度に調査した結果とを比べたものは、下記のとおりです。

二酸化窒素は、No. 5地点において過去の平均を上回り、それ以外の地点において過去の平均と同等かそれを下回る濃度となっていました。

二酸化硫黄は、全地点において、過去の平均と同等かそれを下回る濃度となっていました。

浮遊粒子状物質は、No. 6とNo. 7、No. 9地点において、過去の平均を上回り、それ以外の地点において過去の平均と同等かそれを下回る濃度となっていました。



風向による濃度の変化

調査時における風向別の大気汚染物質の濃度は以下のとおりです。

なお、調査当日に風が吹かなかった風向では、濃度が表示されていません。

地点	二酸化窒素	二酸化硫黄	浮遊粒子状物質
No. 1			
No. 2			
No. 3			
No. 4			
No. 5			

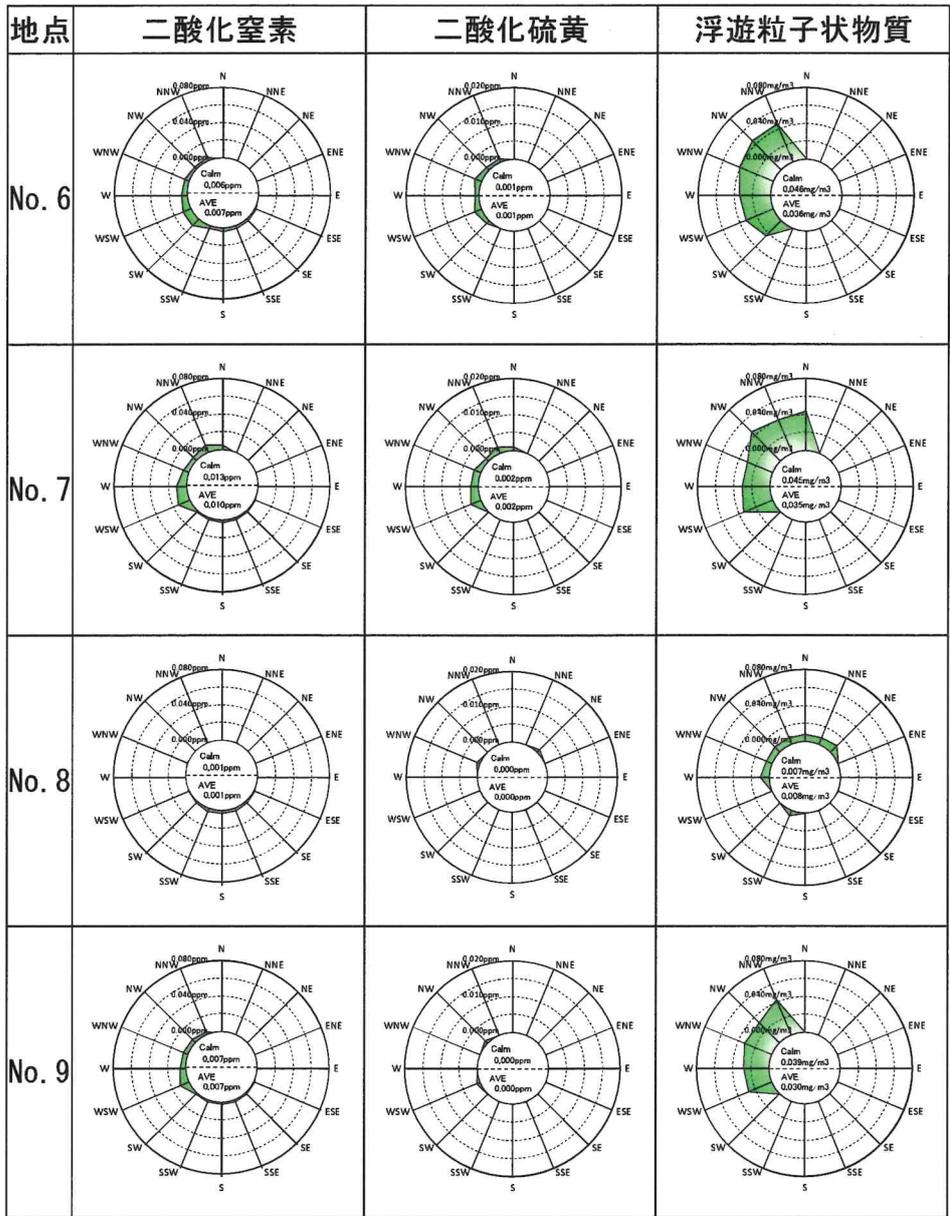
No. 1 地点は、南南西～西南西の風が多くみられました。すべての項目について、風向による濃度の顕著な差はみられませんでした。

No. 2 地点は、南の風が多くみられました。二酸化窒素と浮遊粒子状物質は南南東の風のときに比較的高い濃度を示しましたが、二酸化硫黄は風向による濃度の顕著な差がみられませんでした。

No. 3 地点は、北東の風が多く見られました。二酸化窒素と浮遊粒子状物質は北東～東北東と西南西～西の風のときに比較的高い濃度を示しましたが、二酸化硫黄は風向による濃度の顕著な差がみられませんでした。

No. 4 地点は、南南東～南の風が多くみられました。すべての項目について、風向による濃度の顕著な差はみられませんでした。

No. 5 地点は、西の風が多くみられました。すべての項目について、風向による濃度の顕著な差はみられませんでした。



No. 6 地点は、西南西の風が多くみられました。
 浮遊粒子状物質は南西～北北西の風のときに比較的高い濃度を示しましたが、二酸化窒素と二酸化硫黄は風向による濃度の顕著な差がみられませんでした。

No. 7 地点は、西～西北西の風が多くみられました。
 浮遊粒子状物質は西南西～北の風のときに比較的高い濃度を示しましたが、二酸化窒素と二酸化硫黄は風向による濃度の顕著な差がみられませんでした。

No. 8 地点は、北西～北の風が多くみられました。
 すべての項目について、風向による濃度の顕著な差はみられませんでした。

No. 9 地点は、西南西～西の風が多くみられました。
 浮遊粒子状物質は西南西～北北西の風のときに比較的高い濃度を示しましたが、二酸化窒素と二酸化硫黄は風向による濃度の顕著な差がみられませんでした。

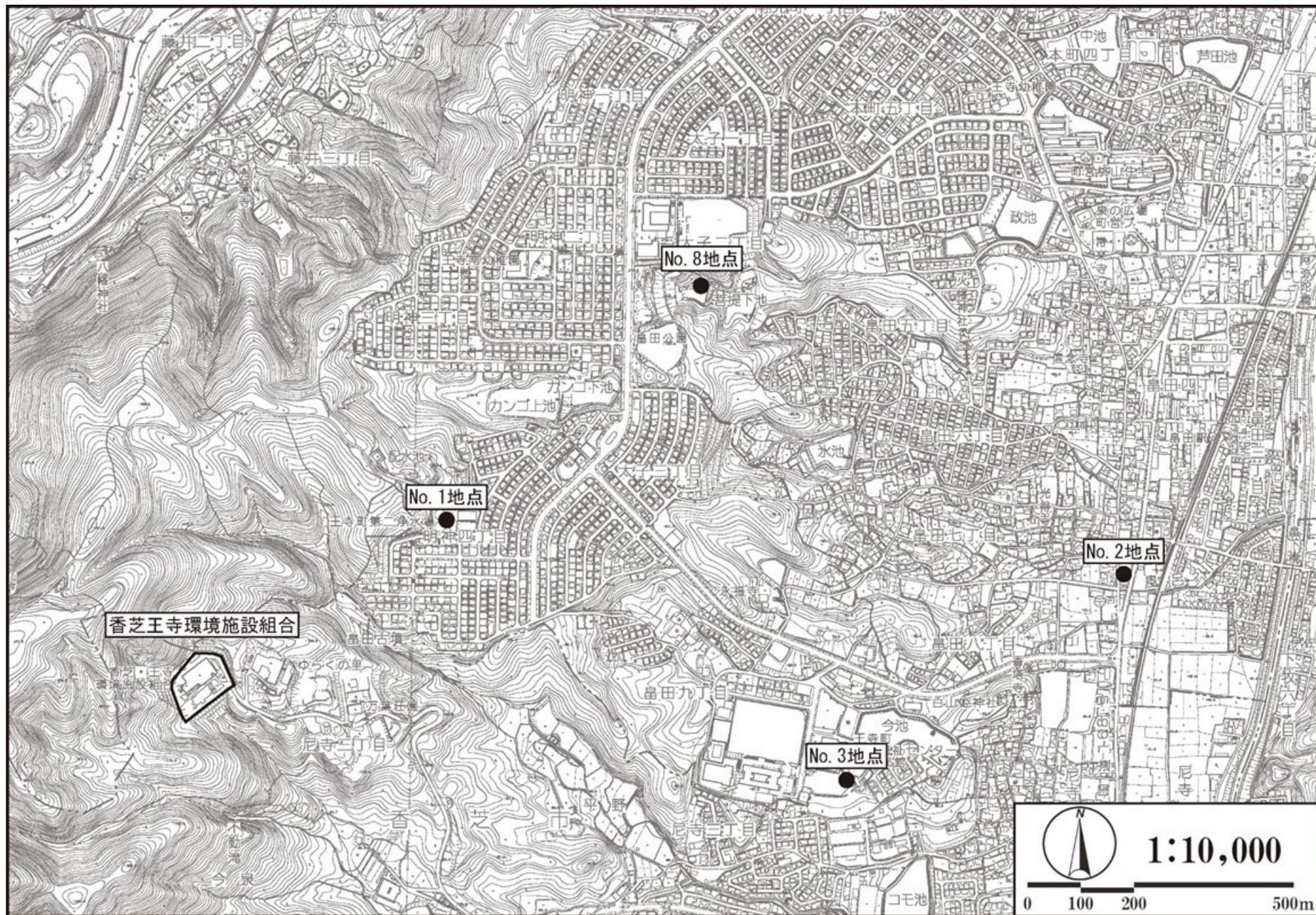
ダイオキシン類調査結果について

No. 4香芝市中継受水場で大気中のダイオキシン類測定を実施しました。結果は0.015pg-TEQ/m³であり、環境基準(0.6pg-TEQ/m³)を下回っていました。



採取風景

図 1-1 (1) 調査地点図 (王寺町)



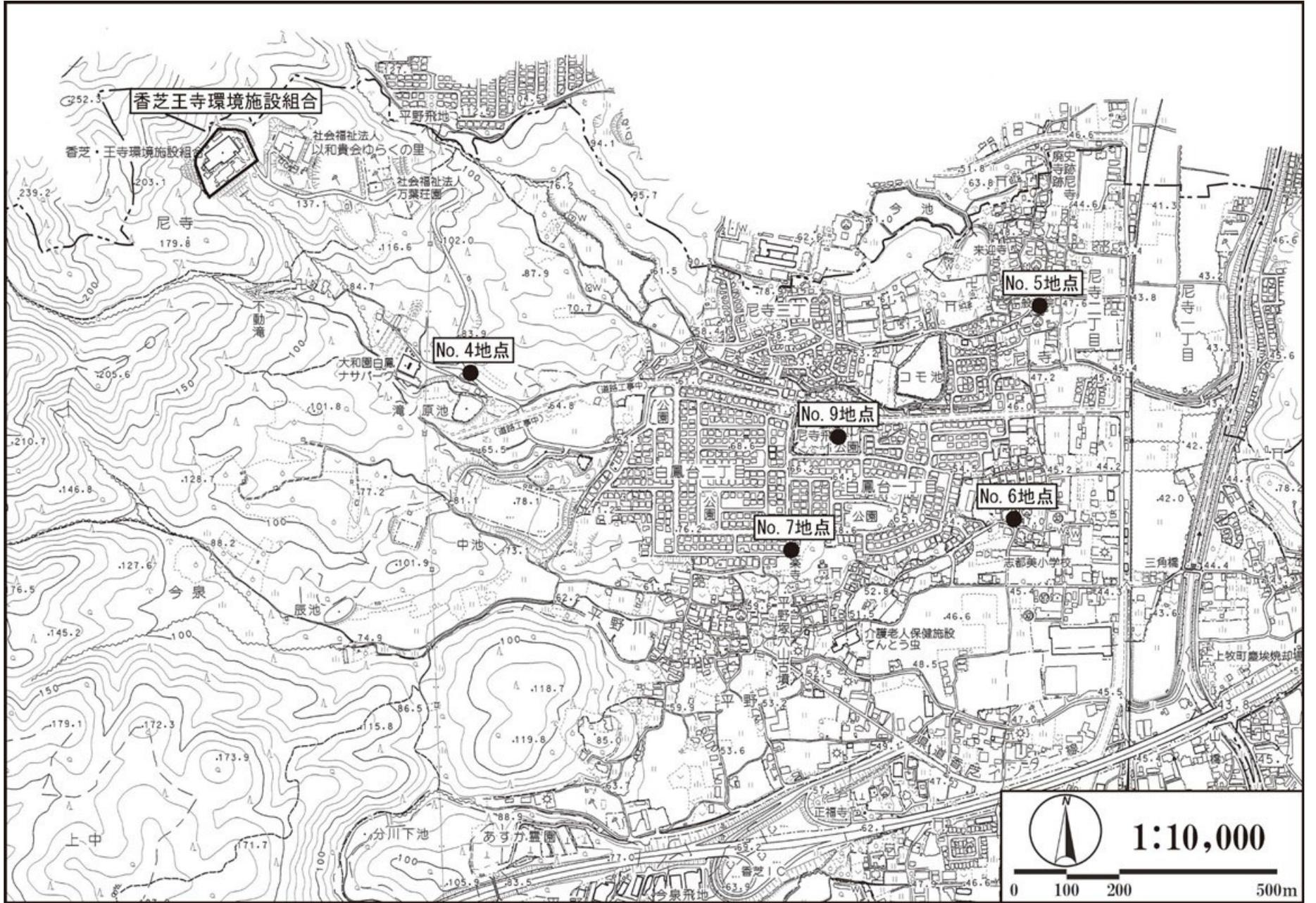


図 1-1 (2) 調査地点図 (香芝市)